



2025年12月23日に伊豆沼・内沼ラムサール条約登録40周年記念式典・シンポジウムが開催されました。

Vol.188
令和7年度2月号

伊豆沼・内沼ラムサール条約登録40周年記念式典・シンポジウム

伊豆沼・内沼は、1985年9月13日にラムサール条約登録湿地となり、2025年で40周年を迎えました。このことを記念し、2025年12月23日にエポカ21において、伊豆沼・内沼ラムサール条約湿地登録40周年記念式典・シンポジウムが開催されました。170名ほどの参加をいただき、式典では、宮城県や登米市、栗原市の主催、共催者挨拶、来賓紹介などの後、これまで伊豆沼・内沼の環境保全活動に大きな貢献をされた、豊田合成東日本（株）様、トヨタ自動車東日本（株）様へ感謝状の贈呈が行われました。

シンポジウムでは、「世界の自然と自然、人と人をつなぐ渡り鳥」と題して、樋口広芳東京大学名誉教授の基調講演の後、財団職員によるこれまでの伊豆沼・内沼の研究・保全活動の歩み、そしてその成果の報告、宮城県築館高等学校自然科学部による「伊豆沼と私たち～9年間の歩み～」と題した事例発表が行われました。

パネルディスカッションでは、西村修理事長をコーディネーターとして、伊豆沼・内沼に関わる各方面のパネラーにご登壇いただき、これまでの調査・研究の成果や環境保全活動の取組みの成果をもとに、生物多様性の回復してきた沼の貴重な自然を保全しながら、その活用を考えいく取組みを、地域の皆さんと協力しながら進めて行くことについて意見が交わされました。

(裏面へ続く)



樋口広芳東京大学名誉教授による基調講演



宮城県築館高等学校自然科学部による発表



パネルディスカッションの様子



西村修理事長(左)より感謝状の贈呈
菊地永祐前理事長(中央)、竹丸勝朗
評議員(右)

40周年記念レセプション

式典・シンポジウムの後、これまで伊豆沼・内沼の環境保全や財団の運営に尽力されてきた方々への謝意を込めたレセプションが開催されました。中でも財団の運営に長年にわたって貢献いただいた5名の方に西村修理事長より感謝状の贈呈が行われました。テーブルスピーチなど和やかな雰囲気の中でレセプションはすすみ、各テーブルではこれから伊豆沼・内沼へ向けてさまざまな議論がなされていました。



レセプションの様子

オオムラサキの保全活動が進行中です



伊藤園の皆様によるCSR活動。
オオムラサキの保護柵の造成。



北海道滝川高校の皆様による越冬中のオオムラサキ幼虫の個体数調査。

日本の国蝶として知られているオオムラサキは、かつては各地の雑木林に広く生息していましたが、生息環境の悪化や縮小によって個体数が減少しているとされ、それは伊豆沼においても同様です。

そこで2025年10月25日に、(株)伊藤園の皆様にご協力のもと、オオムラサキ保護柵の整備活動が行われました。また2026年1月6日には、北海道滝川高等学校の皆様にご協力を頂き、越冬中の幼虫の個体数調査が行われました。個体数調査の結果、オオムラサキの幼虫が1匹、近縁種のゴマダラチョウの幼虫が8匹も見つかりました。

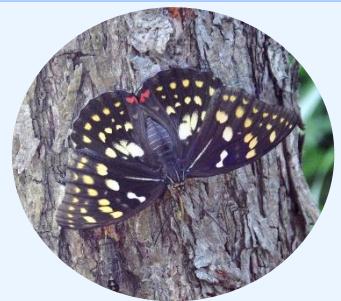
例年当地において観察される

これらの個体数は0~1匹であることから、秋に設置した保護柵の成果が現れたと考えられます。

(株)伊藤園の皆様、北海道滝川高等学校の皆様に改めてお礼申しあげます。



見つかったオオムラサキの幼虫



オオムラサキの成虫

第35回 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト 写真展開催

県内外から応募のあった102点の作品の中から、日本写真家協会井村淳氏の厳正な審査の結果、20点の入賞作品が決まりました。

当センターでは、2月1日より応募全作品を展示しますので、是非ご来館下さい。また、5月1日から右のスケジュールにより入賞作品の巡回展示を行います。

写真展スケジュール

期間	会場	展示内容
2/1~3/25	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	全作品
5/1~5/27	登米市伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	入選作品
6/1~6/28	登米市役所1階ロビー	入選作品
7/1~7/28	栗原市役所1階ロビー	入選作品
8/1~8/26	JRくりこま高原駅オアシスセンター	入選作品



〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畠岡敷味17-2
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指定管理者 (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

Tel0228-33-2216 Fax0228-33-2217
ホームページ:<http://izunuma.org/>
E-mail:izunuma@circus.ocn.ne.jp

